

## 第6回

# 日本・イスラエル・パレスチナ合同学生会議

- 日時： 2008年8月14日(木)～9月1日(月)
- 主催： 日本・イスラエル・パレスチナ学生会議(JIPSC)
- 開催地： 新潟県長岡市、長野県長野市、東京都
- 共催(予定)： 長岡市(新潟県)、長野市(長野県)、武蔵野市(東京都)
- 後援(予定)： 外務省、日本アラブ協会
- 助成(予定)： 独立行政法人国際交流基金、  
財団法人ながの観光コンベンションビューロー
- 協賛(予定)： 独立行政法人国際協力機構(JICA)、  
株式会社公文教育研究会、武蔵野ヤクルト販売株式会社
- 参加人数(予定)： イスラエル人参加者5名(うち、アラブ人学生1名)  
パレスチナ人参加者4名、日本人参加者25名

## 目次

1、第6回合同学生会議にあたって	3
2、合同学生会議の目的について	4
3、合同学生会議内での活動について	5
4、広報活動について	7
5、会議後の展望について	9
6、年間スケジュール	10
7、沿革	11

## 1、第6回合同学生会議開催にあたって

当団体は「日本・イスラエル・パレスチナの学生間の交流と対話の機会を創出すること」を目的として2003年に設立され、過去5年間合同学生会議を行ってきました。このような目的をもって合同学生会議を行ってきた背景には、以下のような問題意識がありました。

イスラエル・パレスチナでは長引く紛争によって、イスラエル人・パレスチナ人の間で交流を持つことが難しく、このことによって相互に偏見が生じ、結果として紛争をさらに長引かせる一因となっている。

日本社会においては、新聞などのメディアを通して得た情報でしかイスラエル・パレスチナについて知ることはできず、「宗教対立」や「テロ」といった紛争にまつわるイメージが先行し、その中で生きる1人1人の姿は見えにくい。

これまで行ってきた過去5回の会議事業の中で、参加者はイスラエル・パレスチナ問題の根深さと複雑さを目の当たりすることとなりました。各回合同学生会議において参加者間の歴史や政治に対する認識が大きく異なり、時として深刻な意見の対立が起こることもありました。しかし、イスラエル人・パレスチナ人・日本人学生間の交流自体が、参加した学生に多くの発見や新たな視点の提供をしたことは確かな事実です。参加者は合同学生会議に参加することではじめて、互いの率直な意見や同じ人間としての側面を発見することができたのです。また、日本社会にこの交流活動を公開することによって、多くの人にイスラエル人とパレスチナ人が交流をもつ意義と交流を通して生み出される可能性を伝えることができました。

そこで、我々は今後ともこの事業を続けていく必要性を感じ、以下の事業を企画しました。

## 2、目的

### 「対話」を通して相互理解を図り、共有できる価値を探る

今回の会議では、「対話」を通してイスラエル・パレスチナ人同士が人間として理解しあうこと、違いを乗り越えて共有できる「対話」の価値を創造することを目指します。ここで当団体が考える「対話」とは、ディスカッション等の話し合いにとどまらず、寝食を共にする共同生活での現地では体験できない顔の見える距離での様々な形のコミュニケーションを指しています。

イスラエル人・パレスチナ人参加者はディスカッション等の「対話」を通じて、互いが何を考え、目指しているかを知ることとなります。その中では、両者は自分たちの間にある違いの大きさを認識します。そうした中でさらに「対話」を続けていくことによって、両者は単に自分たちが対立した二つの存在であるというだけでなく、平和を望む思いなど共通した価値を持った存在であることを認識します。またディスカッションの時間以外にも、寝食を共にした共同生活の中で、彼らは「イスラエル人」「パレスチナ人」としてではなく、同じ人間として共感できる側面を見つけることができます。それらの「対話」を通して彼らがお互いを「一人の人間」として認識し合い、個人レベルでの相互理解ができるのではないかと考えています。

このように、合同学生会議中に行われる「対話」により友情や平和を求める思いなどの価値を創造し、違いを乗り越えてそれらを共有していきます。

### 関心の喚起、「対話」の価値共有

合同学生会議中には、対外的なイベントを開催し、イスラエル・パレスチナへの関心の喚起を図ると共に、対話によって創り出した価値を多くの人と共有することを目指します。

日本社会ではイスラエル・パレスチナ地域に対して「宗教対立」や「紛争」といったイメージが強いですが、文化交流会などの対外的なイベントを通じて、イスラエル・パレスチナの文化や日常生活などメディアでは取り上げられない側面を伝えることによって、日本人にイスラエル・パレスチナを身近に感じてもらい、この問題に関する関心を喚起することを目指します。

また交流会やシンポジウムにおいて、対話から生まれた価値を発信します。具体的には日本人・イスラエル人・パレスチナ人参加者の交流の様態を公開する場を設け、「対話」から何が生み出され、どんな価値を見出したかなどを伝えていきます。それらを通して、多くの人に「対話」の意義や可能性、重要性を発信していきます。

### 3、 合同学生会議内の活動について

今合同学生会議では、合同学生会議中のプログラムの作成に関して「フリープラン」という方法をとります。フリープランとはプログラム内容について日本人参加者だけで決定するのではなく、イスラエル人・パレスチナ人参加者からも提案を募り、日本人・イスラエル人・パレスチナ人参加者で共にプログラムを作っていくものです。そのことによって合同学生会議においてイスラエル人・パレスチナ人参加者の主体的な参加を促すことを目的としています。この事により3地域の参加者が、合同学生会議をともに築き、より多くの「対話」の機会を創出することが可能になります。

過去5回の合同学生会議において日本人参加者だけでプログラム内容を決めていたため、日本人参加者とイスラエル人・パレスチナ人参加者の間に、迎える側・迎えられる側という関係が生まれていました。そのため、イスラエル人・パレスチナ人参加者の主体的な参加の余地を奪うような結果となってしまうことは、事業を行うにあたって毎年直面する課題でありました。そこでイスラエル人・パレスチナ人参加者からもプログラムの内容を募ることによって、プログラム内容の作成段階からイスラエル人・パレスチナ人参加者の関与を高め、彼らの主体的な会議参加が望めるのではないかと考えました。

実際の進め方としては、合同学生会議の申込書の時点で会議内容についての提案を募り、現地の面接でさらに話し合います。その後は議前にインターネットやスカイプを利用して参加者と会議を進める予定です。会議内容についてイスラエル人とパレスチナ人が話し合うことによって、会議期間中だけでなく、その準備段階にまで「対話」の機会を広げることが期待されます。

## 合同学生会議中の日程（予定）

8月	14日	木	来日 / 長岡移動
	15日	金	長岡滞在
	16日	土	↓
	17日	日	
	18日	月	
	19日	火	
	20日	水	
	21日	木	長野滞在
	22日	金	高校生プログラム
	23日	土	高校生プログラム
	24日	日	高校生プログラム / 市内観光
	25日	月	↓
	26日	火	
	27日	水	東京移動 / 観光
	28日	木	武蔵野イベント（午後）
	29日	金	シンポジウム準備
	30日	土	シンポジウム / 同窓会主催の食事会
	31日	日	東京観光
9月	1日	月	離日

## 4、広報

### ホームページ

ホームページは、当団体の存在を知った方がアクセスしやすいメディアであることから、団体の概要や合同学生会議の様子を包括的に伝えていきます。

URL:<http://www.jipsc.org/>

### メールマガジン・ニュースレター

当団体へ継続して活動を社会に伝えていくため、月刊のメールマガジンと季刊のニュースレターを発行しています。いずれも、当団体の会員を始め、関係者や一般の希望者の方々に提供しています。第6回合同学生会議の様子等も、準備段階から会議終了後にいたるまで、広く伝えていく予定です。また、背景となるイスラエル・パレスチナの文化や参加者の声も伝えていきます。

### 第6回合同学生会議広報計画

- 1、ホームページ、メールマガジン、ニュースレターなど、当団体が所有する広報メディア
- 2、新聞各紙、テレビ、ラジオ、市報、区報などの公共メディア
- 3、ポスター、ビラ、メーリングリストなどイベント用の広報メディア

以上の広報メディアを用いて、学生だけでなく、一般の方々にも向けて幅広い広報活動を実施します。特に、合同学生会議中に行うイベントに関しては、開催地域の関係者の方と協力して広報を行い、多くの方に来場していただけるようにします。

マスメディアに対しては基本的に、「必要以上の誇張表現の自重」「主催者に無断での取材の禁止」「事前の報道内容の告知」という条件の下、社会に向けて積極的に活動を伝えていきます。

### 会議開催前の広報

- 1、長野県の高校での事前授業
- 2、長岡市国際交流センターでのイベント参加
- 3、写真展の開催

### 第6回合同学生会議終了後の広報

- 1、報告書の作成（日本、イスラエル、パレスチナからの参加者全員による共同作成）
- 2、各開催地域での報告会開催、
- 3、大学祭への出展
- 4、写真展の開催

- 5、合同学生会議開催地域で行われるイベントへの参加（MIA 祭りなど）
- 6、ホームページ、メールマガジン、ニュースレターでの報告

連絡先

日本・イスラエル・パレスチナ学生会議代表：平山祐理（国際基督教大学社会科学科1年）

住所：〒150-0021 東京都渋谷区広尾 4-2-24 JICA 地球ひろば

メールボックス番号 45 「日本・イスラエル・パレスチナ学生会議」行

電話番号：080-6582-2703 E-mail：info@jipsc.org

## 5、会議後の展望

日本人・イスラエル人・パレスチナ人間における対話の継続

会議終了後も参加者間で築いた関係を継続させ、さらに深めていきます。具体的なプランとしては、メーリングリストを作成し参加者が連絡を取りやすくします。またその他の様々なインターネットを通じた手段を使い、参加者間の「対話」を続けていきたいと考えています。

日本社会への発信

会議で経験したことや得たことをできるだけ多くの人に広め、「対話」から生まれる価値を多くの人と共有していきます。発信手段としてはまず、会議参加者それぞれが、それぞれの社会において自主的に発信していきます。また、報告会の開催や大学祭への出展といった合同学生会議の報告をする機会を設け、広く一般の方に伝えます。他に、当団体のホームページやニュースレター、メールマガジンを通じ、会議の成果を定期的に継続した発信を行ってきます。

また、合同学生会議の様子を映像で収め、ドキュメンタリー映像としてまとめる予定です。このドキュメンタリー映像は報告会や大学祭などで上映予定です。映像によって、合同学生会議の様子をより分かりやすく伝えることができると期待しています。

## 6、年間スケジュール

12月	第6回事務局 発足 第6回日本・イスラエル・パレスチナ合同学生会議 企画書作成 イスラエル人・パレスチナ人参加者募集要項作成
1月	イスラエル人・パレスチナ人参加者 募集開始助成金申請、企業渉外開始
2月	イスラエル人・パレスチナ人参加者 第一次選考（書類審査） 関係地域・関係団体との打ち合わせ開始
3月	現地に先遣隊派遣、 イスラエル人・パレスチナ人参加者 第二次選考（面接審査）
4月	イスラエル人・パレスチナ人参加者とインターネットを介してプログラム作成開始
5月	長野県内の高校にて事前授業 合同学生会議開催地域にてイベント開催
6月	航空券、ビザ申請開始
7月	現地に先遣隊派遣、 イスラエル人・パレスチナ人参加者に対してオリエンテーション 開催地域、関係団体との最終調整
8月	第6回合同学生会議開催
9月	報告書作成
10月、11月	大学祭への出展、報告会の開催

## 7、沿革

2003年	7月	団体設立、第1期事務局発足、代表に上川路文哉を選出
	8月	先遣隊派遣
	9月	第1回日本・イスラエル・パレスチナ合同学生会議を開催
	12月	第1回合同学生会議報告会を開催
2004年	1月	第2期事務局発足、代表に渡辺典喜を選出
	2月	アラブ人留学生との交流会実施
	5月	イスラエル・パレスチナ文化セミナー「五感で感じるイスラエル・パレスチナ」開催
	6月	勉強会「アラブ人留学生と英語で話すイスラエル・パレスチナ紛争」開催
	7月	先遣隊派遣
	8月	第2回日本・イスラエル・パレスチナ合同学生会議開催
	10月	国際基督教大学文化祭にて会議の写真を展示したフォトギャラリーを開催 長岡市・旧山古志村(新潟中越地震被災地)への支援呼びかけ
2005年	1月	第3期事務局発足、代表に安田祐輔を選出
	3月	世界の若者による対話～RING～主催、RING2005に協力・参加
	8月	第3回日本・イスラエル・パレスチナ合同学生会議開催
	10～	
	12月	第3回合同学生会議報告会を各地で開催・大学祭への出展
2006年	1月	第4期事務局発足、代表に林あかねを選出
	2月	オープン勉強会開催
	5月	JIPSC セミナー「中東和平への日本社会からのアプローチ」開催 長野県長野西高等学校、長野市立臯月高等学校にて授業
	6月	写真展「イスラエル・パレスチナの素顔 学生の視点から」を開催
	7月	JIPSC セミナー「パレスチナ問題 連続ワークショップ 導入編」開催
	8月	第4回日本・イスラエル・パレスチナ合同学生会議開催
	10～	
	12月	第4回合同学生会議報告会を各地で開催・大学祭への出展
2007年	1月	第5期事務局発足、代表に松本真実を選出
	3月	ドキュメンタリー上映会「対話から生まれるもの」を開催(東京都武蔵野市、渋谷区)
	5月	ドキュメンタリー上映会「対話から生まれるもの」を開催(新潟県長岡市)
	6月	長野県長野西高校にて授業
	8月	第5回日本・イスラエル・パレスチナ合同学生会議開催 イスラエル・パレスチナの現地の写真を紹介する写真展を開催 (東京都武蔵野市、渋谷区)

JIPSC

	11 ~ 12 月	第 5 回合同学生会議の報告を各地で実施*・大学祭への出展
2008 年	1 月	第 6 期事務局発足、代表に平山祐理を選出

\*新潟県長岡市では、同市主催の「未来市民国際フォーラム 2007」にゲストスピーカーとして出演、長野県長野市では長野西高校国際教養科の生徒対象に授業を実施。東京都内では 12 月に武蔵野市、JICA 地球ひろばで報告会を開催予定。